

2018年10月21日(日)／説教者：國分美生

説教：「力強い聖霊の働き」

聖書：使徒言行録19:23～29

エフェソは非常に大きな都市でした。女神アルテミスの巨大で荘厳な神殿があり、町の外からお参りに来る人が途切れませんでした。いつも賑やかで、観光地として栄えていました。ここでひと騒動おきます。銀細工師デメトリオは職人たちに向かって「われわれはこの仕事のおかげでもうけているが、パウロは『手で作ったものなどは神ではない』といて、多くの人をたぶらかしている」と訴えます。職人たちのまず第一の心配事は自分たちの仕事の評判と利益のことでしたが、彼らは市民の信仰心を利用してこの騒動に巻き込みます。アルテミスを馬鹿にされた、と憤った市民と経済的な安定が失われてしまうと危惧した職人たちの利害は合致したようで、パウロと同行者たちは群衆に吊し上げられる寸前のところまで行きます。

神殿を訪れる観光客のおかげで、この町の経済は成り立っていたでしょう。たしかにお金は必要です。人間ご飯を食べなければいけません。子どもがいたら服や学用品を買って揃えなくてはなりません。また、病気になった時お金はとても心強いものです。聖書の中でもお金そのものを批判する箇所はどこにも出てきません。ですが、一連の記述から見えてくるのは、この町では金もうけのためにアルテミス信仰が利用され、またそのような、一部の人たちが仕掛けた歪んだ社会のシステムが、常識として町全体を覆っていたのではないだろうか、ということです。記事は信仰的な事柄ではなく、宗教とお金・経済、ということに焦点が当てられているように見えます。

ここで「パウロは演説をしてエフェソの人々を改心させました」とかそんな展開にはならず、やや唐突にこの記事は終わっています。ですが、華々しい成功エピソードよりもこちらのほうが私たちの現実の生活に近いようにも思います。困難の多い時代です。不正な利益の貪りと、他方で搾取されている人々。間違っていることに対して声を上げれば、吊し上げられ、糾弾される時代。他の人々をあおり、力の弱い者たちを攻撃させ、傷つける者たち。このパウロたちのように前にも後ろにも進めない状況にも遭遇します。

そのような困難の中での聖霊の豊かな働きを使徒言行録は記しています。この聖霊の力強い導きは今も、私たちの上に吹いています。生き、主を証し、宣べ伝えよと。聖霊は私たちに翼を授けます。(國分美生)